

(1) 特別課題研究

陶磁器製品の固有情報表示技術に関する研究 (1/1)		NO. 25
陶磁器製品の固有情報表示技術に関する研究 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業試験場	吉元 昭二、榊原 一彦
研究の概要	研究の内容	陶磁器製品にテーブルウェアとして利用する際のコーディネート情報を記録した表示（例えばQRコードなど）を施す技術について検討する。表示方法のひとつとして積層造形装置を用いたレーザー刻印技術の利用も考慮する。
	研究の目標	焼成後に施した表示が消失しない表示技術の開発が最重要目標となる。また、陶磁器製品に例えばQRコードなどを表示する場合、外観を損なわないようにすることも重要であり、そのためには標識の大きさは極小小さく10×10mm以下を目標とする。
	備考	[県] あいち産業科学技術総合センター管理運営事業費

水素炎を用いる加熱炉の開発 (3/3)		NO. 26
水素炎を用いた炉によるセラミックスの焼成 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業試験場	吉元 昭二、榊原 一彦
研究の概要	研究の内容	水素への燃料転換を支える、水素炎を用いるCO ₂ フリーの加熱炉の開発に取り組む。平成30年度は名古屋大学から水素専燃バーナーの提供を受け、そのバーナーを利用して試作した水素炎燃焼実験炉を用いてセラミックスの焼成を行う。通常の焼成炉で酸化焼成したセラミックスとの物性等の比較を行う。
	研究の目標	通常の焼成炉で酸化焼成したセラミックスとの物性の比較を行い、同等の値を目指す。
	備考	[(公財) 科学技術交流財団] 知の拠点あいち重点研究プロジェクト (Ⅱ期)

(2) 経常研究

常滑焼製品のための新規な加飾技術の開発 (3/3)		NO. 8
茶器製品のための加飾技術の開発 (1/1)		
研究機関/担当者	常滑窯業試験場	宮田 昌俊
研究の概要	多様な製品、様々な芸術・美術運動などについて幅広く調査を行い、得られた成果を、常滑産地を代表する製品に反映させ、新規な常滑焼製品の加飾技術の開発を行う。平成30年度は茶器製品を対象とし、調査から得られた成果を成形・乾燥・焼成技術に合致させ、新規な加飾技術の開発を行う。	